

2011年10月21日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

世界の樹脂コンパウンド市場を調査

2015年市場予測

樹脂コンパウンド	世界	2010年比	19.0%増	2,996万ト
	日本	同	5.3%増	160万ト
	中国	同	38.9%増	1,393万ト
	東南アジア・インド	同	49.2%増	267万ト

注目市場“バイオプラスチック” 2010年比196.2%増 77万ト

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、中国・アジアを舞台に再び成長し始めた樹脂コンパウンド市場とメーカーの事業戦略を調査した。その結果を報告書「2012 コンパウンド市場の展望と世界戦略」にまとめた。

この報告書では、樹脂コンパウンド市場は汎用樹脂5品目、エンブラ7品目、スーパーエンブラ4品目の計16品目の世界市場を調査し、用途や価格、開発などの動向と地域別の市場動向を提示した。特に今回は需要が拡大する中国と東南アジア・インド市場をクローズアップし分析している。また、注目されるバイオプラスチック、難燃剤については前回の調査（2009年）に引き続きその市場動向を追っている。樹脂コンパウンドメーカーの戦略分析に関しては前回の調査を大幅に上回る199社の事例を明らかにした。

<調査結果の概要>

樹脂コンパウンドの世界市場 日本は世界市場の内数

	2010年	2009年比	2015年予測	2010年比
汎用樹脂	2,202万ト	113.6%	2,623万ト	119.1%
日本	113万ト	117.7%	122万ト	108.0%
エンブラ	299万ト	110.3%	352万ト	117.7%
日本	35万ト	109.4%	34万ト	97.1%
スーパーエンブラ	15万ト	125.0%	22万ト	146.7%
日本	4万ト	100.0%	5万ト	125.0%
合計	2,517万ト	113.3%	2,996万ト	119.0%
日本	152万ト	115.2%	160万ト	105.3%

2010年の世界市場は前年比13.3%増の2,517万トンとなった。内、152万トンが国内（日本）市場である。今後国内市場の伸びは鈍化するが、世界市場は当面安定拡大し、2015年には2,996万トンになると予測される。

汎用樹脂（汎用樹脂コンパウンド）

2010年の世界市場は前年比13.6%増の2,202万トンとなった。2009年に金融危機の影響で落ち込んだものの、主に中国・アジアの需要拡大に支えられ回復し、2011年以降は年率3%以上の拡大が予想される。

PVC（ポリ塩化ビニール）とABS（アクリロニトリルブタジエンスチレン）が用途の広さと物性の良さ等から市場の80%を占め、拡大を牽引している。PP（ポリプロピレン）は自動車生産の拡大、PE（ポリエチレン）は中国における電線被覆材の需要拡大、PS（ポリスチレン）は液晶テレビの普及や大型化が追い風となっている。

エンブラ（汎用エンブラコンパウンド）

2010年の世界市場は前年比10.3%増の299万トンとなった。特に家電・OA機器や電気電子部品、自動車部品で大量に使用されるPC（ポリカーボネート）とPBT（ポリブチレンテレフタレート）、PA6（ポリ

アミド6)、PA66(ポリアミド66)、太陽電池や電気自動車/ハイブリッド自動車関連部品で使用されるm-PPE(変性ポリフェニレンエーテル)の実績が大きい。今後も市場は年率3%以上の拡大が期待され、2015年には350万トン以上になると予測される。

スーパーエンブラ(スーパーエンブラコンパウンド)

2010年の世界市場は前年比25.0%増と大幅に拡大し、15万トンとなった。PPS(ポリフェニレンサルファイド)の実績、伸び率ともに最も大きく、市場の牽引役となっている。

今後PPSやPA6T(ポリアミド6T)は、電気自動車/ハイブリッド自動車の生産拡大に伴う電装関連部品向け需要の拡大が期待される。特にPPSはハイブリッド自動車のインバーター部品向け需給が既に逼迫し始めており、主要メーカーも生産能力の増強を検討している。またスマートフォンやタブレットPCのコネクタ向けでLCP(液晶ポリマー)やPA9T(ポリアミド9T)の需要拡大が続く見通しである。その他、照明用LEDの拡大によってLEDリフレクター向けでPA9Tの需要拡大が予想される。

1. 中国における樹脂コンパウンドの市場

	2010年	2009年比	2015年予測	2010年比
汎用樹脂	921万ト	121.3%	1,276万ト	138.5%
エンブラ	78万ト	116.4%	111万ト	142.3%
スーパーエンブラ	4万ト	133.3%	7万ト	175.0%
合計	1,003万ト	120.8%	1,393万ト	138.9%

2010年の中国市場は前年比20.8%増の1,003万トンとなった。汎用樹脂は、用途が広く、物性に優れたABSとPVCが全体市場をほぼ2分している。エンブラは、家電製品・OA機器や電子部品用途を中心とするPCが46%を占めている。スーパーエンブラは、コネクタ関連の需要が集中しているLCPの構成比が高く、47%を占めている。

今後も市場は拡大し、2015年には2010年比38.9%増の1,393万トンが予測される。

2. 東南アジア・インドにおける樹脂コンパウンドの市場

	2010年	2009年比	2015年予測	2010年比
汎用樹脂	151万ト	123.8%	230万ト	152.3%
エンブラ	26万ト	113.0%	35万ト	134.6%
スーパーエンブラ	1万ト	100.0%	2万ト	200.0%
合計	179万ト	121.8%	267万ト	149.2%

2010年の東南アジア・インド市場は前年比21.8%増の179万トンとなった。汎用樹脂は、ABSとPVCに加えPPの構成比が高く、自動車用途の大きさが反映されている。エンブラとスーパーエンブラは日本と同様に自動車用途が多い。その為エンブラはPBTやPA6、PA66の構成比が高く、スーパーエンブラはPPSが56%と過半を占めている。特にPPSはハイブリッド自動車用部品用途で需要が急増している。

市場はまだ小規模であるが、今後順調に拡大し2015年には2010年比49.2%増の267万トンが予測される。

<注目市場>

1. バイオプラスチックの世界市場(樹脂コンパウンドの世界市場には含まれていない)

分類	2010年	2009年比	2015年予測	2010年比
生分解性樹脂	19万ト	135.7%	44万ト	231.6%
バイオマスプラスチック	7万ト	116.7%	33万ト	471.4%
合計	26万ト	130.0%	77万ト	296.2%

2010年の市場は前年比30.0%増の26万トンとなった。内訳は生分解性樹脂が73%、バイオマスプラスチック(生分解性は示さないが、原料の全てあるいは一部が植物由来の樹脂)が27%である。

PLA(ポリ乳酸)をはじめとした生分解性樹脂は、法整備が進む欧州を中心に需要が拡大しており、参入メーカーも相次いで供給能力を強化していることから、今後も2桁成長が続く見通しである。

バイオマスプラスチックは枯渇資源である石油への依存からの脱却やCO₂排出量削減などの面からニーズが高まっており、製品投入も活発に行われている。現状ではDu Pont社のPTT(ポリトリメチレンテレフタレート)

や Arkema 社の P A 1 1 (ポリアミド 1 1) が中心となっているが、従来から販売されていた P A 系バイオマスプラスチックの再評価が進んでおり、P A メーカーも改めて拡販に努めている。また、ブラジルの Braskem 社がサトウキビ由来バイオポリエチレンの本格的な生産、販売を開始していることから、バイオマスプラスチック市場は 2 0 1 1 年に 1 5 万トンが見込まれる。バイオポリエチレンに加え、P E T (ポリエチレンテレフタレート) や P C など既存樹脂の原料を石油由来から植物由来に切り替える開発も活発であり、一部では供給も開始されている。バイオプラスチックは石油由来樹脂に比べて高価格であることがネックとなっているが、製品開発や生産設備の新增設が活発で供給面も充実してきており、今後も環境意識の高い欧州を中心に市場は拡大していくと予想される。

< 調査対象 >

調査対象品目	汎用樹脂コンパウンド 5 品目	PP、PE、PS、ABS、PVC
	汎用エンブラコンパウンド 7 品目	PC、POM、PBT、PA6、PA66、m-PPE、GF-PET
	スーパーエンブラコンパウンド 4 品目	PPS、PA6T、PA9T、LCP
	その他	バイオプラスチック、難燃剤
戦略分析対象企業	199社	

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

< 調査期間 >

2011年7月～9月

以上

資料タイトル: 「2012 コンパウンド市場の展望と世界戦略」
体 裁 : A4判 455頁
価 格 : 138,000円(税込み144,900円)
書籍・電子版セット158,000円(税込み165,900円)
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部
TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。
URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/